第２回うきは市立義務教育学校新設準備委員会　議事要旨

開催日時	令和 8 年 10 月 28 日（水）19：00 ～ 20：00
開催場所	うきは市立図書館 3 階大会議室
参加者	委員：麻生委員長、白石副委員長、権藤委員、佐々木（博）委員、佐々木（千）委員、田中委員、梶原委員、國武委員、林委員、渡邊委員、堤委員、江藤委員、石井（準）委員、物部委員、竹並委員、弘瀬委員、古賀委員、石井（雄）委員、城後委員、髙木委員、德永委員、良永委員、石井（太）委員 （欠席）金子委員、伊福委員 事務局（教育委員会部局）：松田教育長、江藤学校教育課長、熊懐学校再編推進室長、坂本指導主事、佐々木指導主事、井上学校再編係員 事務局（市長部局）：髙瀬財政課長、高山市民協働推進課長、手島企画政策課長、蔵満こどもみらい課長 （欠席）今林建設課長

議事次第

１．開会
２．委員長あいさつ
３．議事
　(1) 各部会からの報告について
　　① 教育課程部会
　　② 通学運営支援部会
　　③ 学校施設整備部会
　　④ 学童保育について
　(2) 今後のスケジュールについて
４．その他
５．閉会

議事要旨

１．開会　（松田教育長）

日中のお仕事大変お疲れさまです。そして、今日小学校では運動会で本当にお疲れの中、夜に会議でお集まりいただいております。本日の会議が、次回の第 3 回目に、また来年度に繋がる実りのある会議になるよう、皆さんのご意見でそういう会議にと思っております。本日もよろしくお願いします。

２．委員長あいさつ　（麻生委員長）

第 1 回会議の後、各部会が 2 回ずつ開催されました。本日は、その内容の報告と、部会によっては、全体にお伺いしたいこともありますので、そのあたりも含めて意見交流をさせていただきたいと思っております。皆さま方には、お気づきの点、お分かりにならない点も含めて、遠慮なくご意見を出していただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

３．議事	
(1) 各部会からの報告について	
① 教育課程部会　（資料１） 部会長より報告 教育課程部会では、どういう教育内容、あるいは教育方法で、どんな子供を育てるのかということ、また、学習指導要領という、こういう教育を進めていこうということを書いた基本的な手法が、令和12年に小学校、令和13年に中学校から完全実施、新しい内容が始まるところを見据えて、どういうふうに授業に反映していくかを検討している。また、学年区分については、６－３制や４－３－２制というところを、どちらが良いだろうかということを協議しており、後でご意見をいただけたらありがたい。５－４制というのも若干意見としては出ているところである。	
学校評議員代表　A委員	中１ギャップの子どもへの影響の大きさについて伺いたい。 →　部会長：中１ギャップというのは、小学校から中学校に入ったときに、子ども達の環境が大きく変わったり、担任の先生を中心として一日ご指導頂いていたのが先生も変わるなか、友達関係等でもいろいろあって、不登校傾向になったりするというのがいわゆる「中１ギャップ」である。それを解消するために義務教育学校という形が考えられたのも、大きな狙いの一つである。小5、小6、中1、ここを大事にする区分について協議を行っているところである。
学校評議員代表　A委員	この教育カリキュラムを見ると、中１ギャップを意識した案だとすごく感じたが、人生の中で、さらに高校、大学、専門学校、就職などいろんな環境の変化がある。それでもやはり、中１の時はまだ、精神的に不安定なところがあるからということなのか。 →　事務局：高校は「自己選択である」ことが大前提にあり、学校に対する進路の決定の仕方が強くなるし、ある程度心も体も成熟して、考えもしっかりしたところで入学する。 中学校は義務教育なので試験もなく、その地域にある中学校に行くという流れである。中学校の段階がどうしても不登校が多くなるのでなんとか減らしたい、6年生から中1に上がるところを緩やかにしたいというのが大きなところである。
地区代表　B委員	学年区分について、５‐４制の区分のデメリットで、「大胆な教育改革に繋がりにくい」とあるが、考えとしてどういった方向性を持っているのかお聞きしたい。 →　事務局：成長の過程で、少し細かく切って子ども達の行事のまとまりとか、子ども達の活動とかを作り出すという意味では、大きなまとまりのままだとあまり変わりがなく、大胆で新しい教育課程編成とはなりにくい。 要するに５‐４の２区分では、６‐３‐２区分とあまり変わらないという考えである。大胆な教育をするというより、今ある課題が解消されやすい仕組みづくりになるのではないかという考えである。

小学校保護者代表　C委員	先ほどから話に出ている中１ギャップについて、現状でそういった問題が出ているかどうか中学校の先生に伺いたい。
中学校長 D委員	→小学校の環境とは違う状況の 1 番は、教科ごとに教科担任が違うところではないか。教育課程に関しては、教科を超えて同じような学び方をしていこうという形に変わってはきている。それは中１ギャップを意識して、今の学習指導要領で取り組まれているところじゃないかなと考えている。今の中学校の状況を見たら、そのギャップに戸惑っている生徒は実際にいるなというところがある。 そこで、教育相談部会を毎週 1 回行って、子ども達の状況をいろんな関係機関の方々と共有しながら、生徒 1 人 1 人に対してどのように取り組むか毎週協議しながら、それぞれの立場でアプローチをかけている状況である。そんな中で改善する生徒もいるが、なかなか改善が見られない状況の生徒がいるのも事実である。
教育長	→小学校から中学校へ明らかに環境が変わる。教科ごとに担任が変わるし、複数の学校が集まる。小学校はクラス単位が基本だったのが、中学校になれば部活動もある。そこに溶け込めずに一人になるというような中一ギャップの状況は現実としてある。そのような現実も含めて、教育課程部会の中で、こんな子どもを育てたい、そのための学校区分をどうするかについて、色んな視点で協議をしていきたい。
市議会代表 E委員	資料の中のめざす子ども像について、「海外を志向する」と書いてあるが、どういった意味合いを持つのか。 →　事務局：部会の中でのご意見として出たものを取りまとめたものであり、またこれから部会の中で協議をしていきたいと思う。
市議会代表 F委員	教員の専門性の中に、小学校教師と連携した部活動という記載があるが、今現在やりたい教員の方がやり、それ以外は地域の方や指導員さんに協力いただく形に持っていっているので、どういったことでこのような意見が出されたのか伺いたい。 →　事務局：おっしゃるように部活動は今地域展開の方向であり、教員の働き方改革もあると思う。ただ、地域の受け皿に課題もあるので、いきなり学校から手放して地域に行くのは現状として厳しいところもある。令和 13 年開校時、部活動という形が残っていることも想定される。中学校在籍の先生が基本的には部活を担当するが、小学校在籍の先生で、専門性や興味があり手伝いができることは子ども達にとってプラスになるところが多い。一つの学校になった強みとして考えている。
市議会代表 F委員	カリキュラムの中で、幼・保・小・中・高の連携とあるが、うきは市に高校は普通科１校であり、高校との連携は難しいところもあるかな思っているが、どういったことで記載をされたのか伺いたい。 →　事務局：おっしゃるとおり、市内の高校は１校だけで、連携については文化祭などの学校行事、あるいは部活動での高校生活用などの話は今現在あって

	いる。一校だけでなく近隣の学校との連携も含めてこれから具体的に詰めていく必要があると思う。
市議会代表 Ｆ委員	学年区分でのメリット・デメリットについて、保護者の方々がより分かりやすいような具体的なものを掲載した方が、準備委員が学校に持ち帰り PTA の方々と情報共有される際に説明しやすいと思う。 →　事務局：来年 1 月 12 日の視察の内容も含めて追加資料を作成する。

② 通学・学校支援部会（資料２）

部会長より報告

通学・学校運営支援部会では、1、学校名・校歌　2、通学方法（スクールバス等）　3、学童保育の内容にテーマを絞り、幅広く意見を募りたいという目的で、2 グループに分かれてワークショップを行った。第 2 回部会では、第 1 回の意見や要望をある程度まとめて、1 の学校名・校歌にテーマを絞って意見交流を行ったところである。

事務局より、追加説明。配布資料「令和 8 年度義務教育学校（学校名・校歌）」の補足説明を行った後、校歌について「今の浮羽中の校歌を残す方向がよいか、あるいは新設校にふさわしい校歌を作った方がよいか」について委員の意見を求めた。

地区代表 Ｂ委員	現在の浮羽中学校歌を知らないのだが。 →　事務局：次回、浮羽中学校歌がわかる資料を提示して、そこからまた少しご意見をいただきたい。

③ 学校施設整備部会（資料３）

部会長より報告

学校施設整備部会では、どんな子どもを育てたい、どんな学校にしたいをテーマとした、9 年間の学びを支える施設、地域との繋がり、新しい学校と学びが深まる空間について協議した。今後については、施設構成等の仕様と、各諸条件を見比べて、令和 9 年から具体的な設計等を行っていくことになると思う。一定程度やはり優先順位をつけないといけないと思うので、そういった優先順位をこの学校施設整備部会の中では引き続き検討をしていければというところまでが 2 回目の協議内容となっている。

教職員組合 代表　Ｇ委員	先生方が働きやすい環境、例えばゆっくり休める休憩室、汗を流すシャワー、またトイレを含めた勤務環境を整えてほしい。 →　事務局：ご意見を第 3 回部会の中でフィードバックをしていきたい。
市議会代表 Ｆ委員	必ずしも厳密に「ここが不登校のお子さんのためのスペース」「ここは学童のためのスペース」と分ける必要もない。子ども達が居やすい場所を作ることが第一なので、一日のタイムスケジュールの中でシェアするやり方もあると思う。また、シンプルで丈夫な建物と記載されていたが、コンクリートの打ちっぱなしとかが、子ども達の心理的な面にどう影響をもたらすのだろうとすごく感じた。浮羽町は木の町なので、どれだけ木質化できるか追求していただきたい。 →　事務局：学童については、担当のこどもみらい課とも話しながら、そういう使い

	道を模索していきたい。また部会でもフィードバックさせていただく。森林譲与税といって、市が税の中から積み立てているお金を一部使う話も林業担当の方からいただいているので、そういった市が使えるお金を使いながら木質化して、この町の木をふんだんに使ってますよと言える部分は出していきたい。

④ 学童保育について

こどもみらい課長より報告

義務教育学校に伴い、既存の学童保育所並びに学童保育所の新設を含め、現在、協議中である。児童の安全確保と保護者の負担軽減、また、将来の利用状況も見据えながら、学童保育の運営体制について、今後も検討を進めていきたいと考えている。

(2) 今後のスケジュール

事務局より説明

第３回準備委員会の開催日について、令和９年２月 24 日（水曜日）19：00 から、るり色ふるさと館の２階、研修室４・５において開催の予定である。

４．その他

地区代表 Ｂ委員	廃校の跡の利活用についての協議の場をどう考えているか、どのように進むのか考えをお聞きしたい。
公室長	来年度、新たな部署を作って一体的に取り組んでいきたい。現時点庁舎内で今後のあり方について検討はしているが、新年度から地域の方、関係する方々と一緒に議論の場を作っていきたいと考えている。方向性はある程度早めに出す必要もあり、スピード感を持って進めていきたいと考えている。
学校評議員代表　Ａ委員	昨年度みたいに、進捗状況を市民の方に説明する場は考えているか。 →　事務局：今はホームページや広報で随時発信はしているが、現在色んなご意見を吸い上げている段階なので、ある程度方向性が決まっていったら、随時やっていきたい。
学校評議員代表　Ａ委員	市民の方は、新学校に対して興味を持たれている方が多い。要は、どうしたら皆から愛される学校にできるかだと思う。一つの手段として、ある程度の情報発信をすると、「俺らが学校」って気持ちになれると思う。知ってもらうとやっぱり親近感が湧く。各地区代表の方々に、どうしたら多くの方から好きになってもらえるか、お知恵をぜひいただきたい。 →　事務局：市民の関心は高いので、適宜発信していきたいし、住民説明会も適宜行っていきたいと思っている。
教育長	どれだけたくさんの人の声が反映されているかが重要だと思う。ここにいらっしゃる皆さんがそれぞれの場で、地区のまとまりや学校で、「これを大事にしてほしい」という様々な意見を吸い上げていただくことで、どれだけたくさんの声が集まって学校ができるかが大事だと思う。

市議会代表 Ｆ委員	なるべく皆さんの声を吸い上げたいというお話なので、よろしければ学童指導員の方の声を聞く機会も設けていただきたいと思う。 →　事務局：　意見として承る。
５．閉会	

以上